

茶 羅 仏 だ よ り

21号

江 浚 え

平成24年4月1日(日)に寒空のもと、「江ざらえ」を皆さんの協力をえて行いました。また当日には子供達も多く参加してくれて村中が綺麗になりました。年末から4月までの間に投棄された空き缶などを子供達が集めました、その量が多めに驚き、マナーの悪い人がいっこうに減らないのが残念でなりません。

子供達の美化運動は、心ないゴミ投棄者の「心のマナー」に訴えて「ポイ捨て防止」となり、住民の美化意識の高揚につながる事が願われます。



金戸の動植物

平成23年7月に子供会の合宿で金戸の生き物をみんなで調べようと話し合った。思いがけず多くの生き物の名前が次なら次と出てきた。大人は小さな生き物には無関心だが子供達は通学途中や遊びでいろいろな生き物を目にしていた。

近年、ホタルが復活し乱舞しているが、シジミやタニシも用水枡や田んぼで見かけるようになった。専徳寺周辺の竹林・雑木林には多様な草花や動物を見ることができ、獣類のムササビ・オコジョ（トバ）なども見る。オコジョは砺波地方ではトバという呼び方をする。イタチ科に属し一番に小さいイタチがオコジョと呼ぶが、識別は難しく尾先が黒いのがオコジョである。

また専徳寺境内に数本ある樫木には、昼間にストッキングにバナナや蜂蜜に浸した果物を入れてぶら下げおくとクワガタやカブトムシが面白いほど捕れる。さらに竹林の中にはバッタ・コオロギ・キリギリス・ハンミョウ・テントウムシ・カマキリなどの昆虫がいる。

トゲミノキツネノボタン（刺実の狐の牡丹・トゲミキンボウゲとも呼ぶ）が石橋友吉の畔に生えているのを、平成17年に元城端町教育長水上成雄氏が城端中学校長時の通勤中に見つけた。富山県植物園で県で最初のトゲミノキツネノボタンの自生と確認された。高さは20㌢にとどかないサイズで花は4月から5月にかけて咲くという。水上成雄氏によれば、秋の収穫後に肥やしとして播く牛豚の糞に混在したものであり、家畜の飼料に混じって外国から運ばれたものと推測されていた。

昭和30年代まで立野ヶ原台地には、秋のキキョウ・ハギ・オミナエシ・オトコヘシ・リンドウ・ススキ等の台地性のものが群生し、カワラケツメイ・クサムネ・ネジバナも繁り、湿地帯のミズゴケ・サワキキョウ・オホバニガナ・ミソハギ・ミズギク・モウセンゴケが群生し、その間に夏に開花するサギソウなどの混ざる様相はまことに美しいものがあつたが、現在ではキキョウもサワキキョウもサギソウも全く見ることができず、土地開発による野生動植物の生息、生育環境が著しく変化した。しかし昔の立野ヶ原台地に一面に生えていたエンナという自生の芝が、大井川の土手に生えて残っている。どんな植物図鑑にも名前が載っておらず正式の名称は不明である。



5月6日の竹の子掘り会



オコジョ（尾が黒い）



トゲミノキツネノボタン



エンナの芝